

令和 7 年度 東京都立翔陽高等学校 学校経営報告

1 今年度の取組目標と自己評価について

(1) 教育活動の目標と方策

ア 計画的・組織的な学校運営の推進

- (ア) 学校経営計画の作成にあたり、「翔陽高校のさらなる魅力向上の実現に向けた未来へのベクトル」に示す 5 つの柱を中心として今年度の取組目標と具体的方策を明確にした。この 5 つの柱を教職員との自己申告面接で確認することで計画的・組織的な学校運営を図った。
- (イ) 企画調整会議や教科主任会を核として、各分掌と年次及び教科との情報共有を密に行い、多様な課題の解決に向けて迅速かつ的確に対応した。今後も早め早めに課題を共有して全教職員が課題を「自分事」として捉えることで都民から信頼される学校づくりを推進する。
- (ウ) 若手教員の研究授業や東京教師道場部員の公開授業には他校からも含めて多くの教員の参加があった。また日々の授業改善や分掌業務での OJT を通じて、若手教員への日常的な支援を行い、学校全体で若手人材の確実な成長につながる授業力・指導力の向上を図った。
- (エ) 学習活動と三大祭など学校行事・部活動の両立ができるよう教職員が意識を統一して丁寧な指導を行った。授業外の学習時間確保のための自習環境の工夫、時間を守り遅刻をしない等の時間管理意識の向上を目指した全校での指導の継続と徹底が今後の課題である。
- (オ) 7 月・12 月の服務事故防止研修等により体罰防止やセクハラ根絶、個人情報保護の徹底等、コンプライアンス遵守に向けた教職員の意識向上を図る組織的な取組を推進した。今後も事故の未然防止研修等を徹底してサービスの厳正を図り、信頼される都立高校を目指す。
- (カ) 毎月 1 回の定例教科主任会を中心に教科間及び教務部・進路部との情報共有を図った。また管理職から「次期学習指導要領（論点整理案）」の大枠や「都立高校の魅力向上等に係る懇談会」の情報提供、教科主任会での模試分析の活用等に関して意識啓発を行った。

イ 学力向上への取り組み

- (ア) 観点別評価や模試分析等により、生徒の強みや弱点を発見し指導の改善点を明確にする取組が確実に定着しつつある。授業評価アンケートでは生徒の肯定的評価が 89% と高水準を維持している。今後も生徒からの意見を真摯に受け止め、組織的に授業改善を進める。
- (イ) 各教科で「指導の重点」に基づく学力スタンダードの達成に向けて指導内容、方法の改善を着実にを行った。各分掌主催の校内研修も定期的に行われ学校運営に効果的である。定期考査採点・分析システムや授業での ICT 活用をさらに活性化させることが課題である。
- (ウ) 7 月に実施したオンライン学習デーの経験を活かし、1 年次での学級閉鎖にも迅速に対応するなど感染予防や天候不順時におけるオンライン学習支援体制が定着した。昨年度改定した規定に基づく「多様な学習ニーズ」生徒への学習支援体制の確立を今後も継続する。
- (エ) 1 年次探究では八王子市と連携した地域課題発見・提案活動を行い、2 月に「まちづくり提案発表会」で発表した。2 年次探究では企業の社会課題に向き合い、探究アドバイザーの支援を受け解決策をグループで考え、代表がコンテストへエントリーし書類通過した。
- (オ) 全教科で言語能力向上を目指して、大学入試や民間検定試験に有効な読解力・記述力やプレゼン能力の育成を図る授業実践等を計画的・組織的に行った。また教員のおすすめ本コーナーを図書館に設置し、活字離れが進む生徒への読書の魅力を啓発する取組も行った。
- (カ) 校内の授業時間外での学習時間の拡大を図り、自習室・スペースの有効活用を推奨したが効果は限定的であった。今後も各教科や教務部・進路部中心に家庭学習や授業外学習時間確保の工夫、進学意識を高める講習の拡大など校内外の学習機会を増やす取組を進める。

(キ) 本校の東京教師道場部員による他校教員も含めた公開授業、若手教員の研究授業、模試分析会の実施等、学校全体で授業改善や授業力向上を図った。生徒一人1台端末やICT機器等、デジタル環境を有効活用したさらなる学習支援体制の充実が今後の課題である。

#### ウ 希望進路の実現への取り組み

(ア) 進路指導研究校の拠点校会議や模試分析会を2回公開し、指導部の進学アドバイザーからの助言を基に「進学指導体制」がレベル4に近づきつつある。今後も進学指導研究校として、増加する総合型選抜や学校推薦型選抜の進路希望にも応えられる体制を確立する。

(イ) 進路部を核として進学指導や「はばたきタイム」を軸とした3年間の一貫したキャリア教育の充実を図った。進路部と各年次担任との連携をさらに強化し、減少傾向にある大学入学共通テスト志願者を増やし、進路行事を精査するなど見直しを図ることが課題である。

(ウ) 1年次は11月に大学訪問、2年次は3月に「卒業生と語る会」、また1・2年次に大学出張講義を実施し将来への興味・関心を高め大学等への進路意識を喚起した。3年間を通じて希望進路への高い志を持ち、実現のため最後まで諦めない姿勢を培う指導を継続する。

(エ) 進路意識調査や第一志望届、模試データ等をシステム化し、教科主任会や校内研修との連動を図った。模試返却指導は年次教科指導担当との連携し、授業とつながりのある指導を行った。大学進学を希望しない生徒への模擬試験の受け方についての指導が課題である。

(オ) 「はばたきタイム」の中で進路ガイダンスや模試の事前事後指導、高大連携による出張講義等を計画的に実施した。近隣大学との連携学習の具体化、模試分析会のさらなる徹底、全教科での生徒の学力課題の明確化などを日々の授業改善に生かすことが課題である。

(カ) 自習スペースを新設し授業外の時間帯での自習環境整備を行った。進路部が長期休業中の講習を組織化し、対象年次・講座数とも増やす取組を行った。今後も自習意識の涵養や大学生チューターの活用、講習等の充実により、生徒の学習習慣と意欲の向上を図る。

(キ) 全教科・全年次教員の協力により、主に総合型・学校推薦型選抜を受験する3年次生徒への面接や小論文指導の充実を図った。今後も進路部と他分掌・各教科・年次との連携を一層強化し、年々増加する年内入試にも対応できる組織的な面接・小論文指導を継続する。

#### エ 英語教育、国際理解教育及び国際交流の充実

(ア) JETとALT各2名を有効活用した英語による英語授業、オンライン英会話やICT等を活用した協働的学びで英語4技能の着実な向上を図った。今後もTOKYO GE-NET EE推進校としてのメリットを活かし、4技能向上を目指して授業内外でJETやALTを一層活用する。

(イ) 推進校予算等の活用で、英検の合格者数は準1級1名、2級79名、準2級200名となった。今後もパフォーマンステストをスピーチやエッセイライティング、プレゼンテーションやディスカッションに発展させ、卒業までにCEFRでB1以上の英語力を身に付けさせる。

(ウ) 1年次対象のイングリッシュ・キャンプに114名が参加した。また12月に東京外国語大学の留学生6名(メキシコ、スリランカ、韓国、中国、内モンゴル、ベトナム)を招き交流を行った。3月にケアンズへの研修旅行を行い、17名が参加するなど国際交流を推進した。

(エ) 1月に実施した台湾への海外修学旅行により、2年次生が外国語と異文化や習慣に触れる貴重な体験をした。次年度も都教委の「都立高校生等の海外派遣研修」や「海外の学校との姉妹校提携に向けた交流希望校」への応募など、新たな国際交流機会の創出を目指す。

#### オ 生徒の規範意識向上への取り組み

(ア) 日頃から全教員が生徒の遅刻、服装、頭髪、時と場に応じた言葉遣いや所作について声掛け指導を行った。始業式や終業式での身だしなみ指導も全教員で取り組んだ。地域から指摘を受けるバス乗車や身だしなみ指導等の具体的方法について今後も検討・改善を図る。

(イ) 警察署や一般社団法人等から外部講師を招き、がん教育講話やデートDV予防啓発講話、セーフティ教室として盗撮行為防止講話や自転車安全乗車講話等を実施した。今後も自殺やいじめ防止、ネット犯罪予防、盗撮等の防止を図ることで生徒の意識喚起を促していく。

(ウ) 定期考査時の不正行為や校内での盗撮に関わる特別指導が数件あった。また登下校時のバス乗車や自転車のマナーに関する地域からの苦情が数件あり、その都度注意を呼び掛け

- て巡回や警備を強化した。特別指導の規定の見直しを図り、次年度から適用していく。
- (エ) 1月に高尾警察署と連携し自転車通学時のヘルメット着用を促す校門での注意喚起を行った。令和8年4月道路交通法改正に伴う「青切符制度」を踏まえ教材アプリ「輪トレ」活用、交通違反予防やヘルメット着用徹底など自転車安全利用の促進を図る取組を進める。
  - (オ) 2名配置されたSCによる1年次生全員面接を実施した。いじめに関するアンケート調査を年3回実施するなど生徒の些細な変化も見逃さない体制を構築し、生命に関わる重大事故防止に取り組んだ。今後もSCや教育相談センターと連携して生徒の心のケアに取り組む。
  - (カ) 地域に開かれた学校として、館小中学校生徒との交流や和太鼓部の八王子祭や児童館での演奏、男女テニス部の児童館でのスポーツ交流等を行い好評であった。今後も地域の催しへの積極的な参加を継続し、近隣の学校との部活動や児童・生徒との交流の拡大を図る。
  - (キ) 特別支援教育委員会を計6回実施し生徒情報を共有した。1月に本校SCを講師に「不登校や発達などで苦しむ生徒の対応の仕方」をテーマとした校内研修を実施した。1月に市役所・消防署と連携して1年次生対象に地域防災訓練を行い生徒の自助共助意識を高めた。
- カ 特別活動の充実への取り組み
- (ア) 体育祭や合唱祭、翔陽祭の三大祭に生徒は実行委員を中心に主体的に取り組み、保護者も多く来場した。弓道部やダンス部の全国大会出場など部活動の活性化も見られた。合唱祭の実施方法の検討等を通じて、今後も学業と特別活動の両立を図る指導に取り組む。
  - (イ) 翔陽祭では各団体の企画内容の充実等が見られ、体育祭・合唱祭を含めて生徒主体の運営に向けて教職員でサポートした。今後も生徒実行委員会を中心に学校行事の内容や協力体制の改善に積極的に取り組ませ、内容の充実と達成感や自己肯定感を育む指導を展開する。
  - (ウ) 生徒自身で工夫した部活動紹介など新入生に活動の魅力を伝え、健全な心と身体を育成する指導を活性化させた結果、部活動加入率も今年度は79%（昨年度78%）に上昇した。今後も生徒募集対策に資する中学生対象の部活動体験や地域との部活動交流の充実を図る。
  - (エ) 都教委のガイドラインに則り、安全・安心な部活動の実施を心がけた。今後も活動日や回数等、部活動指導の方法を常に点検するとともに、計画的な活動の実現のため体罰やセクシャル・ハラスメント等の根絶、WBGT測定器等の活用で熱中症予防対策の徹底を図る。
  - (オ) 高い規範意識を持ち自らを律することができる生徒の育成を目指して、全校集会や年次集会、ホームルーム活動等で継続的に指導を行った。今後もまず「声を掛ける」を合言葉に全教職員で生活指導方針を共通理解の上、学習と部活動等両立に向けて全校で取り組む。
  - (カ) 5月に東京都統一体力テストを実施し、生徒が課題を持って体力向上に取り組み、生涯を通じてどんな困難な状況においても自分らしく生きるための意識の向上を図った。今後も東京都統一体力テストのデジタル化に伴う結果入力方法の確認等の対応を図っていく。
- キ 生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒の育成への取り組み
- (ア) 外部講師を招き、主権者教育講演会や盗撮行為防止講話、自転車安全乗車講話やがん教育講演会等を実施した。今後も18歳成年を踏まえた主権者教育の充実、情報科の授業やホームルーム等で情報セキュリティやSNSの適切な使用方法、情報モラル等の指導を行う。
  - (イ) 生徒、保護者の悩みに対応するため、専門性のあるSC等に確実に繋げる対応を行い、いじめや不登校の予兆の早期把握に努めた。いじめ対策委員会の開催により生徒情報と対応を共有した。デートDV講演会など外部関係機関と連携し生徒の人権感覚の向上を図った。
  - (ウ) いじめ防止対策推進法の趣旨に沿って校内体制を整備し、いじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ年3回実施した。今後もいじめと疑われる事案は校内の情報共有と外部機関との連携を徹底し、学校いじめ対策委員会を核に事案発生時の早期対応を心がける。
  - (エ) 生徒がSOSを発信しやすく学校全体で悩みを受け止める温かな雰囲気づくりを目指して特別支援コーディネーターやSCを始め全教職員が取り組んだ。今後も研修会の実施や都立学校版コンディションレポートを活用した生徒状況把握に向けた体制作りを進めていく。
  - (オ) 都立学校間交流教育事業を通じて、地域の拠点校である八王子西特別支援学校への相談や交流など連携を深め、SCを講師とした校内研修会を実施した。今後も不登校生徒や発達

障害等の生徒への通級指導などの対応を含め YSW や外部関係機関との連携を充実させる。  
(カ) 18 歳成年制度を受け、主権者教育講演会、公民科や家庭科の授業における契約など消費生活に関する基本知識や消費者として主体的に行動できる能力と態度を身に付ける指導を行った。今後も外部講師を活用した主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させる。

#### ク 地域に根ざした学校づくりへの取り組み

(ア) 学校運営連絡協議会を年 3 回 (6 月、11 月、2 月) 実施し、学校評価アンケートにより生徒・保護者・地域・教職員からの要望や意見を聞き取り、学校運営の透明化を図った。地域との交流機会の拡大や評価アンケート結果等を踏まえた改善策の実施が課題である。  
(イ) 避難訓練を年 4 回 (5 月、7 月、9 月、12 月)、1 月に市役所や消防署と連携した地域防災訓練を実施した。今後も全教職員で消防署や警察署・地域と連携し、危機管理マニュアルを基に事故・事件発生時の対応や連絡体制を明確にした危機管理体制を構築していく。  
(ウ) 生徒の環境委員会・保健委員会を中心に環境美化活動や熱中症予防対策等の保健環境整備を実施した。今後も校内のごみ箱設置、地域や P T A と連携した環境改善支援ボランティア設立等、学校安全衛生環境の維持・推進に向け計画的な環境整備に取り組んでいく。  
(エ) 部活動指導員や外部指導員を有効活用し、教員の部活動指導における負担軽減を行った。また月 1 回の安全衛生委員会において、産業医を交えて定期健康診断結果やストレスチェック、月毎の残業時間データ等を検証し教員のライフ・ワーク・バランスの向上を図った。  
(オ) テレワークや時差勤務の活用等により教員の超過勤務は減少傾向だが、今後も残業上限が月 45 時間超過とならないよう注意・喚起を促し、長期休業期間等における年次有給休暇の計画的・積極的な取得等により、教職員の心身の健康を守る学校づくりを進めていく。  
(カ) 超過勤務の教員や病気休暇中の教員について、産業医及び管理職との面談を通じて状況把握と助言を行った。今後も閉庁日の適正な実施と長期休業期間などにおける年次休暇の計画的取得などを促し、教職員の健康管理の徹底と働きやすい職場づくりを進めていく。

#### ケ 広報活動の取り組み

(ア) 学校見学会 (8 月) に 1149 名、都立高校 EXPO (7・8 月) に 208 名、学校説明会 (10 月、11 月、12 月、1 月) に 590 名の参加があった。生徒広報委員や外部説明会活用で推薦選抜で受検生が増加したが一般選抜は 2 次募集となった。受検生や保護者の分析が課題である。  
(イ) 入学者選抜については、1 月の中進対では 0.74 倍、最終倍率は推薦に基づく選抜が 2.0 倍 (昨年度 0.9 倍)、学力検査に基づく選抜が 0.89 倍 (昨年度 0.76 倍) と昨年度より増えた。本校の魅力をさらにアピールする生徒募集対策の工夫と改善が喫緊の課題である。  
(ウ) 教員による中学校訪問 (8 校) や塾訪問 (96 教室) を実施した。また夏季休業中に教育情報部を中心にミニ見学会を 4 回実施した。今後は中学校や塾の対象地域も拡大し本校の教育課程や進路指導、行事・部活動の推進、国際交流行事等の特色などを積極的に PR する。  
(エ) ホームページ等の更新を計 300 回以上行った。またインスタグラム等を活用してタイムリーな話題や部活動情報等の更新を頻繁に行うなど本校の教育活動を分かりやすく迅速かつ正確に発信した。今後も構成・内容等を刷新し、中学生の閲覧回数を増やす工夫を行う。  
(オ) 学校案内パンフレットやポスターを刷新した。また学校説明会や見学会で生徒広報委員による生徒目線での PR も好評であった。厳しい志望倍率の状況を踏まえ今後も全校体制で対外的な広報活動を積極的に展開し、本校を第一志望とする中学生の一層の増加を目指す。

### (2) 経営参画の目標と方策

#### 経営企画室の経営参画への取り組み

(ア) 経営企画室と教員との連携を強化して業務を遂行した。また教育庁関係部署との連絡調整により各課題の解決を図った。若手職員も経営企画室長や主任中心に計画的に育成した。  
(イ) 次年度の自律経営予算ヒアリング等を通じて教員と意識を共有し、適正な編成を行った。常に費用対効果を意識した予算執行に努め、トイレ改修に向け関係機関との連携を進めた。  
(ウ) 一般需用費のセンター執行割合は 50.0% であった。入学者選抜のインターネット出願事務や個人情報管理、会計事故防止に努めた。DX 予算や多様な学習予算も有効活用していく。

(エ) 生徒の安全に関わる事故を未然に防止するため教員と連携して施設設備の点検や修理、空調設備設置、来年度からのトイレ改修に係る連絡調整等について速やかな対応を行った。

## 2 数値目標

内 容	目 標	達 成 度
学校評価アンケート 本校入学満足度（肯定的評価）	生徒 75% 保護者 75%	生徒 86.7% 保護者 93.2%
学校評価アンケート 家庭学習充実度（肯定的評価）	生徒 80% 保護者 80%	生徒 83.6% 保護者 74.4%
学校評価アンケート 進路指導充実度（肯定的評価）	生徒 75% 保護者 75%	生徒 90.7% 保護者 90.9%
学校評価アンケート 英語教育充実度（肯定的評価）	生徒 70% 保護者 70%	生徒 85.3% 保護者 81.6%
学校評価アンケート 国際理解教育充実度（肯定的評価）	生徒 75% 保護者 75%	生徒 87.9% 保護者 91.9%
学校評価アンケート 教育相談充実度（肯定的評価）	生徒 70% 保護者 70%	生徒 78.9% 保護者 86.8%
学校評価アンケート ホームページ充実度（肯定的評価）	生徒 80% 保護者 80%	生徒 83.5% 保護者 88.4%
平日の家庭学習時間	1年次 80分以上 2年次 100分以上 3年次 150分以上	1年次 66分 2年次 76分 3年次 125分
生徒による授業評価アンケート 各教科・科目授業満足度（肯定的評価）	90%以上	89.0%
英語検定 準1級、2級、準2級所有者数	準1級 2名以上 2級 70名以上 準2級 200名以上	準1級 1名 2級 79名 準2級 200名
英語外部検定CEFRで B1以上の割合	30%	23%
進路決定率	90%以上	87.9%
大学入学共通テスト出願率	80%	68.3%
大学入学共通テスト 全国平均上回り科目数	7科目	2科目
国公立大学への現役出願者数	15名	12名
国公立・難関私立大（早慶上理）現役合格者数	5名以上	3名
GMARCH現役合格者数	40名以上	15名
中堅私大（日東駒専）現役合格者数	60名以上	28名
部活動加入率	80%以上	78.6%
年間遅刻延べ回数	のべ4500回以下	のべ4705回
入学者選抜等の倍率	中進対 1.2倍 推薦 2.0倍 学力検査 1.2倍	中進対 0.74倍 推薦 2.00倍 学力検査 0.89倍
ホームページの更新回数	400回以上	305回